

なぜ、私たちは 「自由経済」を知らないのだろうか。

『いわゆる「正当な」経済学は、ほとんどの国の大学から締め出されている』
—ルートヴィヒ・フォン・ミーゼス
(村田稔雄訳『ヒューマン・アクション—人間行為の経済学—』)

ここでしか聞けない、「自由経済」を推進する者たちの結集の場

自由経済研究会2017

主催 公会計研究所・自由経済研究所
お問い合わせ: ssob@catallaxy.jp

9/9 (土) 13:00 受付～
9/10 (日) 16:30 解散

料亭旅館 **大正館**

三重県四日市
最寄駅 近鉄四日市駅より徒歩7分
(昨年と異なる開催場所です)



自由経済研究会 開催の趣旨

市場での取引を通じて、私たちは他人の成功を利用します。取引に際しては、品物を手に取り値札と見比べながら、その効用を計ります。これが会計です。納税者の承諾なしに行われる徴税は、略奪です。継続し、反復して合法的に行われる略奪が横行すると、市場から取引は消えていきます。

本来、主権者である納税者は、税をコントロールすることができます。

でもどうやって？ その答を見つけます。

公会計研究所 自由経済研究所 吉田 寛



スケジュール 2017年9月9日(土) 当日、変更の場合もあります。

Start	End	事項	内容
13:00	13:20	受付	
13:20	13:50	開式	自己紹介・アイスブレイク
14:00	14:50	18歳から考える経済と社会の見方	蔵 研也
15:00	15:50	ウィーン古典派が考える市場とは	馬場 晋一
15:50	16:10	ブロックチェーンにみる 貨幣信用とリスク	高尾 浩次（馬場ゼミ学生）
16:20	17:10	豊かさはどこから来るのか	吉田 寛
17:10	18:40	パネル ディスカッション	主権者に望む
19:30	20:50	夕食	

蔵 研也（岐阜聖徳学園大学 准教授 カリフォルニア大学 経済学Ph.D）

近著『18歳から考える経済と社会の見方』

フリードマンの Free to Choose 日本語字幕を公開

日本はバブル期以降、他の先進国に比べて長期的な経済停滞の状況に陥ってきました。その理由は主に労働生産性が上昇してこなかったことにあり、それはつまり多くの規制がありすぎて各種の産業の効率化を妨げているためです。これは、私が昨年出版した『18歳からの経済と社会の見方』のメインテーマです。それをもう一度みなさんと考えてみます。

馬場 晋一（長崎県立大学 講師 博士（経営管理学））

『ヒューマンアクション』には次のような一節があります。「自動的に匿名の力が、市場のメカニズムを動かしていると、比喩的に語るのが慣例となっている。（中略）しかし、そこには自動作用はなく、熟慮して選んだ目的を意識的に目指している人々があるのみである（H.A p147より）」この一節に隠されたウィーン学派特有の接近法「方法論的個人主義」を説明します。

吉田 寛 公会計研究所 代表（千葉商科大学 会計大学院 教授 博士（政策研究））

主著 『公会計の理論』

市場は余剰を豊穡に変えます。取引は「他人の成果」を利用します。取引が良い取引であったかをその成果と向き会って、功績を計るのが会計です。

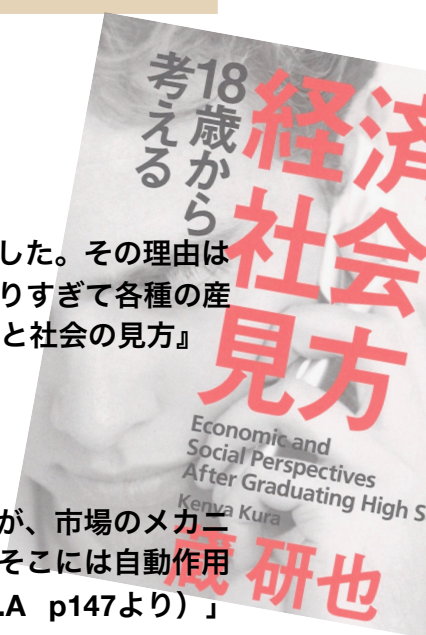
パネル ディスカッション

主権者に望む

コーディネーター 仁木崇嗣 一般社団法人ユースデモクラシー推進機構 代表理事

パネリスト 四日市市長 森智広、伊勢市長 鈴木健一、伊勢市議会議員 野崎 隆太

Student for Liberty 大嶋康浩、公会計研究所 吉田寛



岩倉 竜也（翻訳家 主にロスバードとホッペ）

主な訳書 『新しい自由のために （ロスバード）』

越後先生（滋賀大学）に学ぶ。自由な市場経済を支持する人でさえ、警察・裁判・防衛などのサービスは国家が提供しなければならないという。しかしこれらもまた市場に委ねることができるはずだ。マレー・ロスバードはこのように国家なきリバタリアン社会の実現を目指して研究を続けた。日本ではほぼ完全に無視されているロスバードの業績について主要著書を中心に考えてみたい。

中野雄太（千葉商科大学 博士課程）

保護政策、補助金行政の代名詞とも言われる農業政策を公会計の立場から検証します。2006年に国が公開に踏み切った省庁別財務書類によれば、農林水産省のこの15年間弱で補助金は10倍以上に増えているにもかかわらず、農業の成長率は低いままです。補助金行政から自由競争への移行が、次世代の日本の農業政策には必要となることを論じます。

関谷昇（千葉大学 教授 博士（法学））

主著 『近代社会契約説の原理』

16-18世紀西欧の思想家たちによって議論された近代社会契約説研究をテーマにしながら、主体性・主権と抵抗権・連邦制・地域共同体をめぐる歴史や諸原理の考察に取り組んでいます。これらを通じながら、「自然」と「作為」との根源的な関係から切り拓かれる「共生」の可能性を、「市民自治」「都市自治」の観点から追求しています。

渡瀬 裕哉（早稲田大学 公共政策研究地域主権研究センター招聘研究員）

主著 『トランプの黒幕』

米国の、保守主義者の集まる共和党への無理解が、日本のメディアを「トランプ敗北・ヒラリー勝利」のシナリオに走らせた。米国の保守主義とは、小さな政府である。米国と対等に向き合うためには、保守主義を理解しなければならない。

パネル ディスカッション

受益者に望む

コーディネーター 仁木崇嗣 一般社団法人ユースデモクラシー推進機構 代表理事

パネリスト 桑名市市長 伊藤徳宇、 亀山市議会議員 今岡 翔平

Student for Liberty 玉川傑洋、 千葉大学 関谷昇

スケジュール 2017年9月10日（日）当日、変更の場合もあり

Start	End	事項	内容
9:00	9:50	ロスバードとホッペ	岩倉 竜也
10:00	10:15	休憩	
10:15	11:05	農業政策の可能性	中野 雄太
11:15	12:05	自由民権運動と抵抗権	関谷 昇
12:10	13:10	昼食	
13:20	14:10	保守主義の可能性	渡瀬 裕哉
14:20	15:50	パネル ディスカッション	受益者に 望む
15:50	16:20	クロージング	

大正館

名前に「市」のつく町は古くから市が立っていました。四日市も、戦国時代から「四」の付く日に「市」が開かれていました。

市場経済を検討する自由経済研究会にはふさわしい場所です。

会場の大正館は、大正元年創業（1912年）の老舗料亭旅館です。

人々が民主主義を知り、それを求めるようになる大正デモクラシーの時代に産声を上げました。

